

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	柴田町立槻木小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	3	3	3	3	20	27
児童数	77	95	89	99	93	90	4	547	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付ける子どもの育成
 <習熟度別学習や少人数指導等，児童の多様性に応じる指導の工夫を通して>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- * 実施学年及び教科
 - ・ 全学年(国語科，算数科)
 学習の基礎・基本となる国語科と習熟度に差の出やすい算数科を研究教科として取り組む。
- * 研究の目標と内容
 - ・ 児童に確かな学力を身に付けさせるために，児童の多様性に応じる効果的な指導方法や指導形態の工夫について授業実践を通して明らかにする。
 - ・ 次の3つの視点で研究に取り組む。
 - (1) 指導方法・指導形態の工夫
 - (2) 指導過程の工夫
 - (3) 評価の工夫

(2) 年次ごとの計画

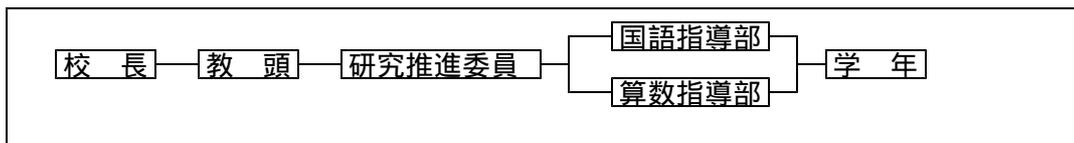
平成 14 年度	<p>テーマ 確かな学力を身に付ける子どもの育成 <きめ細かな指導の工夫を通して></p> <p>仮説 日々の学習において，きめ細かな指導を工夫すれば，基礎・基本の確実な定着と自ら学び自ら考える力が高まり，子どもに確かな学力を身に付けることができるであろう</p> <p>研究の内容・方法 国語科・算数科における「基礎・基本の確実な定着」に重点をおいた きめ細かな指導の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法の工夫 ・ 教材開発 ・ 発展的・補足的な学習の実践 </p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 確かな学力を身に付ける子どもの育成 <習熟度別学習や少人数指導等，児童の多様性に応じる指導の工夫を通して></p> <p>仮説 国語科・算数科において児童の多様性に応じるために (1) 指導方法や指導形態の工夫 (2) 指導過程の工夫 (3) 指導に生かす評価の工夫 をすれば，児童に確かな学力(学ぼうとする力，学ぶ力，学んだ力)を身に付けさせることができるであろう。</p>
----------------	--

	<p>研究の内容・方法 (1) 指導方法・指導形態の工夫 (2) 指導過程の工夫 (3) 評価の工夫 について授業実践を中心に研究に取り組む。 * 本年度は、14年度に加えて(3)評価の工夫についても取り組んでいく。</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力を身に付ける子どもの育成 <習熟度別学習や少人数指導等、児童の多様性に応じる指導の工夫を通して> 仮説 国語科・算数科において児童の多様性に応じるために (1) 指導方法や指導形態の工夫 (2) 指導過程の工夫 (3) 指導に生かす評価の工夫 をすれば、児童に確かな学力(学ぼうとする力、学ぶ力、学んだ力)を身に付けさせることができるであろう 研究の内容・方法 習熟度別学習や少人数指導等、児童の多様性に応じる指導を教科等で実践し、児童の変容を確かめ、「確かな学力」を育成するための指導のあり方を授業実践を通してまとめる。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(1) 指導方法・指導形態の工夫 TT・少人数指導 複数の教師が指導にあたることで、教材研究や児童理解がより深まった。児童へのアンケート結果などからも、分からない時に聞きやすい、自分に合った勉強ができる等、TT・少人数指導がよいという割合が高かった。 コース別学習 国語科・児童の表現方法の違いや課題の違いによるコース別学習を取り入れて、TTや少人数指導を行ったことにより、一人一人の書いたり話したりする活動や調べ活動に対する、きめ細かな支援が可能となった。 算数科 - 児童の理解の程度やつまづき等に応じた習熟度別学習に取り組んだ。児童は、自分に合ったコースを選ぶことによって、意欲的に学習に取り組み、理解を深めることができた。</p> <p>(2) 指導過程の工夫 国語科 - 学習計画表を示して自力解決の場を設けることにより、自分のペースで意欲的に学習に取り組ませることができた。また、支援の時間を確保したことで、より個に応じた指導ができた。 課題や課題の解決方法別にグループで練り合う場を設定したことにより、学び合い高め合わせることができた。 復習の学習プリントを用意し、自分で学習が進められるようにした。その結果、学習の見通しをもって取り組む児童が増えてきた。学校でできないことも家庭学習で取り組んでくる児童が増えてきている。 算数科 - コースごとに児童の実態に応じた学習プリントに取り組ませることにより、個に応じた指導を行うことができた。 体験的な活動や具体物による操作的活動は、実感を伴い、児童の意欲を高</p>

め、学習の理解につながった。
理解や習熟が進んだ児童には、発展的な学習に取り組みせ、多様な考えを出し合いながら課題解決に取り組みさせることができた。

(3) 評価の工夫

1 単位時間の中で評価の重点化を図ったことにより、個に応じた支援の手立てを考へて指導に生かすことができた。

学習計画の機能をもたせた振り返りカード(自己評価カード)を取り入れることで、見通しをもって学習に取り組みせたり、より主体的に学習することができた。カードには教師からの励ましやアドバイスを記入したことで、児童の学習意欲に高まりが感じられた。

2. 今後の課題

(1) 指導方法・指導形態の工夫

国語科

・TTや少人数指導を単元のどの場面で実施するのが望ましいのか、実践の中でさらに明らかにしていく必要がある。(年間指導計画の見直しを行う。)

算数科

・習熟度別学習に取り組んだが、もとの学級より人数が多くなったコースもあり、少人数の良さが発揮されないこともあった。集団規模の大小によらない、指導方法や指導形態の工夫が必要であった。

・コース分けの根拠となる実態把握の方法をさらに工夫するとともに、児童の自己評価能力もさらに高めていく。

(2) 指導過程の工夫

国語科

・個に応じた学習プリントの工夫や開発が十分にできていなかった。興味関心や課題解決方法別に学習に取り組む国語科では、教室環境や図書、コンピュータ等の情報環境を整備する必要がある。

算数科

・児童の実態にあったコースを設定するためには、指導計画の見直し、単元構成の工夫が必要である。

(3) 評価の工夫

国語科・算数科

・評価の重点化を図っているが、さらに効果的な評価の在り方を工夫していく必要がある。

・TTや少人数指導を行ったあとに担当同士の情報交換の時間を確保するために、コンピュータ等を活用して効果的に行えるような工夫が必要である。

・振り返りカード(自己評価カード)を利用して、自己評価能力の育成を図ってきたが、今後さらに振り返りの観点を示し、教師からの助言や指導を加えることで、より児童の自己評価能力を高める工夫が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

領域別学力検査(TK式) - 年度始めに国語と算数の2教科で実施(2年生以上)
市販テストによる到達度調査 - (単元ごとにデータ処理ソフトによる分析)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度10月22日(金) 槻木小学校公開研究会開催予定
平成16年1月にホームページ公開予定(<http://www.tukinokisyo.myswan.ne.jp/>)

